

## 河北新報のニュースサイト・コルネット

宮城のニュース

## 「働く」って何だろう？ 30代2人が対談イベント



仕事に取り組む姿勢などを、率直に話し合った「Works × Talks」=9日、仙台市青葉区の市市民活動サポートセンター

あなたにとって仕事とは、働くとは何ですか？ 仙台市で働く30代の男性2人が「仕事」をテーマにした対談イベントを展開している。就職難や非正規労働者の増加など、雇用環境が厳しさを増す中、働く人を招いて考えを聞き、「どう働き、どう生きるか」のヒントを得るのが狙いという。

2人は仙台市青葉区の団体職員、堀野正浩さん(35)と同じく菊池哲佳さん(36)。「Works × Talks Project」と2人は名乗り、仙台市内でトークイベント「Works × Talks シゴトについて考える」をこれまで2回開いた。

1回目は5～6回転職した経験のある堀野さんが菊池さんと対談。「金かやりがいか」をめぐる職歴を振り返った。2回目はNPO法人で働く30代の女性を招き「(自分の興味・趣味をそのまま仕事にして)NPOで働くのは道楽か」をテーマに、堀野さんと話し合った。

内容は、サクセスストーリーではなく、仕事の悩みや不満も交えた「等身大の自分語り」を大事にしている。「普段のつらさを飲み会の愚痴にするだけでなく、公的な場で話せば、共有できるものがあると思う」と菊池さん。堀野さんは「ゲストの話を参加者ととも考えることで、さまざまな価値観や考え方に触れられる」と話す。

堀野さんは、外資系金融や国際協力機関、日雇いのアルバイトなど、さまざまな仕事を経験したが、ずっと「国際協力・交流」の実現できる職場を選び続けてきたという。一方、菊池さんは社会へ出る自覚のないまま大学を卒業。最初に勤めた企業を数年で辞めるなど、働くことに迷い続けてきた。

30代になって結婚し、仕事観が変わったという2人。人生を顧みて、今後どう生きるかを考える場として、トークイベントを思いついたという。

過去2回のイベントには、20～60代の計約40人が参加した。顔ぶれは、就職活動を終えた学生、会社の経営者、求職者らさまざま。参加者からは「金かやりがいか、選べるだけでもぜいたく」など、厳しい意見も出た。

イベントでは毎回、ゲストの人生の話に焦点を当てつつ、「転職」「男女の雇用の差」など、社会の課題を見据えていくことも忘れない。「終身雇用の前提が崩れつつあり、私たちは60歳になれば引退できるのかどうか分からない。こんな社会だからこそ、いろいろ考えたい」と菊池さん。

次のイベント開催日は未定だが、2カ月に1度のペースで開く。ゲストには、国内で働く外国人、フリーのカメラマンらを予定。

2人は「幅広い年代に参加してほしい。特に就職前の学生にとっては、会社説明会では聞けない本音も聞ける。広い視野を持って、さまざまな職業があることを知ってほしい」と話している。

連絡先はメールでworks × talks@gmail.com  
(生活文化部・矢嶋哲也)

2010年12月30日木曜日

Copyright © The Kahoku Shimpo